

令和5年1月10日

保護者の皆さんへ

しらぎく幼稚園
園長 東海林 肇

園長だより「かけはし」

あけましておめでとうございます。いよいよ令和5年がスタートしました。昨年も、新型コロナウイルス感染症に振り回された年で、一日も早く収束し、明るく・元気に過ごせる年になればと願うばかりです。皆様方のご健康とご多幸を心からお祈りいたします。一月は「睦月」とも言われ、その由来は、お正月に家族や親せきが集まって仲睦ましく過ごすという意味だそうです。ご家族で親せきに会ったり、楽しんだりして様々な思い出ができたことと思います。さあ、今日から3園期。年長さんは小学校入学の年でもあり、期待が膨らむ日々が展開されます。一日一日を大切にしながら、過ごしていければと思っています。保護者の方のご支援を今年もどうぞよろしくお願いいたします。



「うさぎ年」

今年、卯（うさぎ）年です。昔話で「お月様には、うさぎが住んでいて十五夜になると餅つきをするんだよ」「あそこが耳で、白があって・・・」と、古くから伝わっています。この話は、仲良く暮らす、うさぎときつねとさるの物語からきているものだそうです。3匹は、いつも「自分達が獣の姿なのはなぜだろう」「前世で何か悪いことをしたからではないだろうか」「それならば、せめて今から人の役に立つことをしよう」ということを話し合っていました。この話を聞いていた神様は、何か良いことをさせてあげようと思い老人に姿を変えて3匹の前に現れます。何も知らない3匹は、老人が「何か食べ物を恵んでほしい」と話すと、やっと人の役に立つことができる喜びで老人のために食べ物を集めに行きました。さるは木に登って木の実や果物を、きつねは魚を採ってきました。ところが、うさぎだけは一生懸命頑張っても何も持ってくるできません。うさぎは、もう一度探しに行ってくるから火を焚いて待っていて欲しいと、きつねとさるに話して出かけていきました。暫くすると、うさぎは手ぶらで戻ってきました。するとうさぎは、「私には、食べ物を採る力がありません。どうぞ私を食べてください」と言って火の中に飛び込み、自分の身を捧げました。老人は、すぐに神様の姿に戻り「お前達の優しい気持ちは、良く解った。今度生まれ変わる時には、きっと人間にしよう。それにしても、うさぎにはかわいそうなことをした。月の中に、うさぎの姿を永遠に残してやろう」こうして、月にはうさぎの姿が今でも残っているというお話です（長々とすいません）。うさぎに負けないように（でも負けてしまうかも）今年も献身的な気持ちをもって子どもたちに接していきたいと思います。また、うさぎはその跳躍する姿から「飛躍」、「向上」を象徴するものとして親しまれています。新しいことに挑戦するのに最適な年とも言われています。今年こそは、新型コロナウイルス感染症が収束に向かい、次なる発展や飛躍に繋がる、明日が待ち遠しくなるような年になればと願うばかりです。